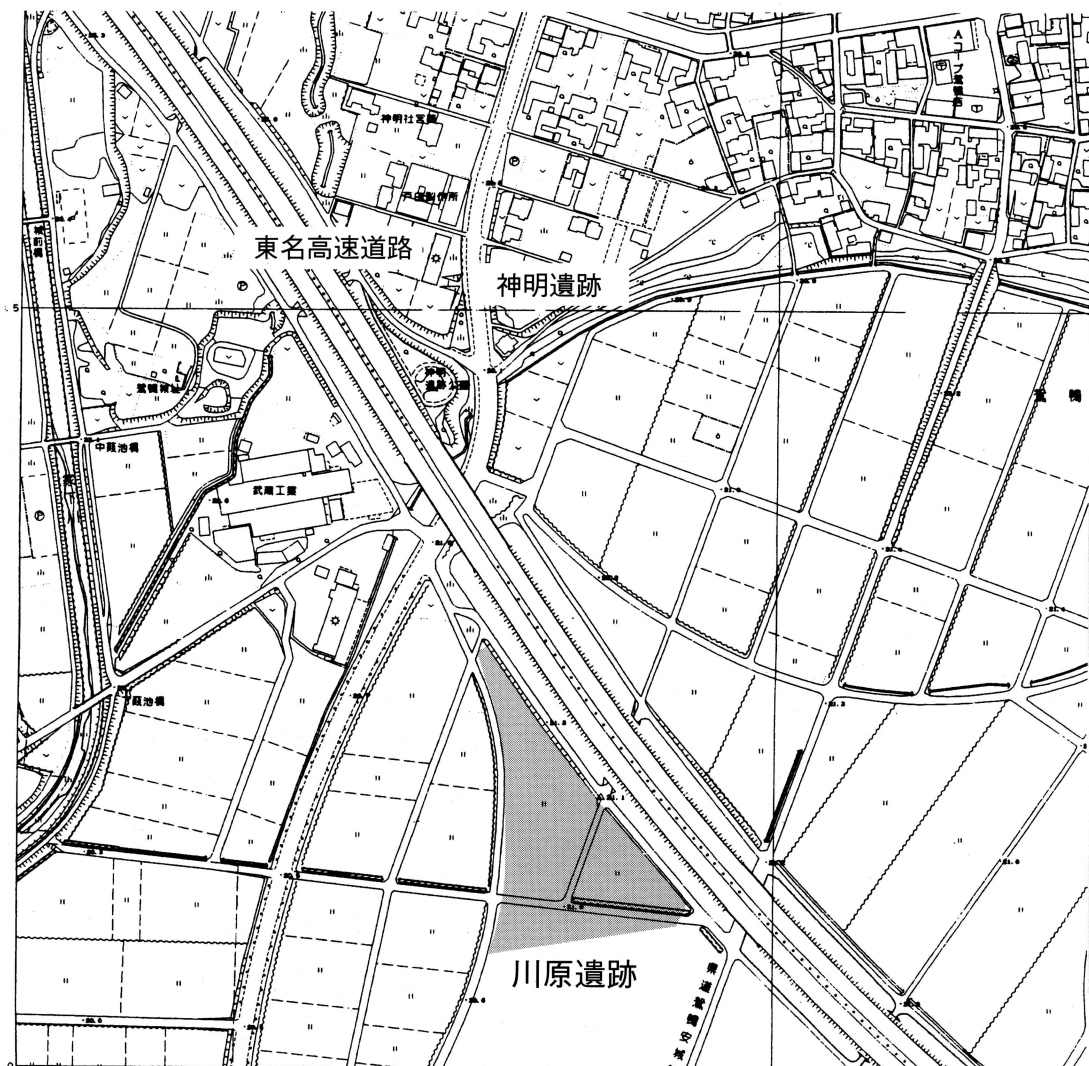


かわはら
川原遺跡

調査の経過 川原遺跡は、豊田市の南部、駕鴨町川原に所在する。本遺跡は、矢作川によって形成された標高20 m前後の自然堤防上に立地する弥生時代から戦国時代にかけての複合遺跡である。

発掘調査は、第二東海自動車道の豊田JCT建設に伴う事前調査で、日本道路公団から愛知県教育委員会を通じた委託事業として昨年度から継続して行なっている。今年度は、97B・C・D区の最下層を4月から5月にかけて実施した。

調査の概要 昨年度の発掘調査の結果大きく4時期に区分できることが判明した。Ⅰ期は縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて、Ⅱ期は弥生時代後期から古墳時代にかけて、Ⅲ期は奈良・平安時代、Ⅳ期は中世・戦国時代である。特に注目すべき遺構として、焼失家屋を含む300棟以上の竪穴住居（弥生時代中期）や墳長約26m×約35m、周溝幅約10mを測る全国最大級の墳丘墓を含む大型墳丘墓4基（弥生時代後期～古墳時代初頭）があげられる。



第1図 調査区位置図 (1:5,000)

今年度は、弥生時代中期の竪穴住居群のさらに下層に展開する遺構を調査した。検出されたのは、多数の竪穴住居と若干の方形周溝墓、さらに竪穴住居に切られるかたちで検出された溝や土坑などである。調査を進めていくと、当初検出された溝の多くは方形周溝墓の周溝であることが判明した。また、土器棺墓も確認された。このことから、今年度の調査で検出されたたれた遺構は、大きく二つに区分される。つまり、方形周溝墓や土坑墓が展開する墓域と、竪穴住居が展開する居住域である。さらに、この墓域と居住域とは時期的に新旧関係にある。以下にその調査成果の概要を報告する。

墓域の時期に確認された主な遺構は、方形周溝墓13基、土器棺墓14基、溝1条、土坑などである。方形周溝墓は、最小のもので約3.6m×約3.2m（S Z 507）、最大のもので約11.3m×9.7m（S Z 504）を測る。なお、主体部は全く検出されなかった。土器棺墓は、ほとんどが壺を用いた単棺であるが、合口棺と思われるものも1基認められる。また、単棺のものには横位状態に置かれたものと立位状態に置かれたものがある。土坑は、長軸1m～1.5m、深さ0.3～0.5mのものと長軸2m前後、深さ1m前後のものに分けられる。また、S K 848のように埋土に微細な焼土塊、炭化物塊、灰などを多量に含むものも多く認められる。これらの遺構はいくつかの集団を形成していると考えられる。つまり、土器棺と土坑が集中する区域と方形周溝墓が集中する区域である。さらにこれらの配置状況を詳細に検討すると、S Z 504を中心として、北西および南東方向に土器棺、土坑が集中する区域（墓域A・B）が広がり、それらを囲むようにして方形周溝墓群が展開する区域（墓域C）が想定される。

土器棺に用いられた壺や遺構から出土した土器などは、概ね弥生時代中期の瓜郷式期に該当すると考えられる。

居住域の時期に確認された遺構は、竪穴住居82棟、若干の溝、土坑である。竪穴住居のなかには、炉跡が想定されるものが13棟検出された。昨年度の調査において、弥生時代中期の竪穴住居が多数確認されたが、今年度の調査で検出された竪穴住居は、その残りのものが確認されたと思われる。

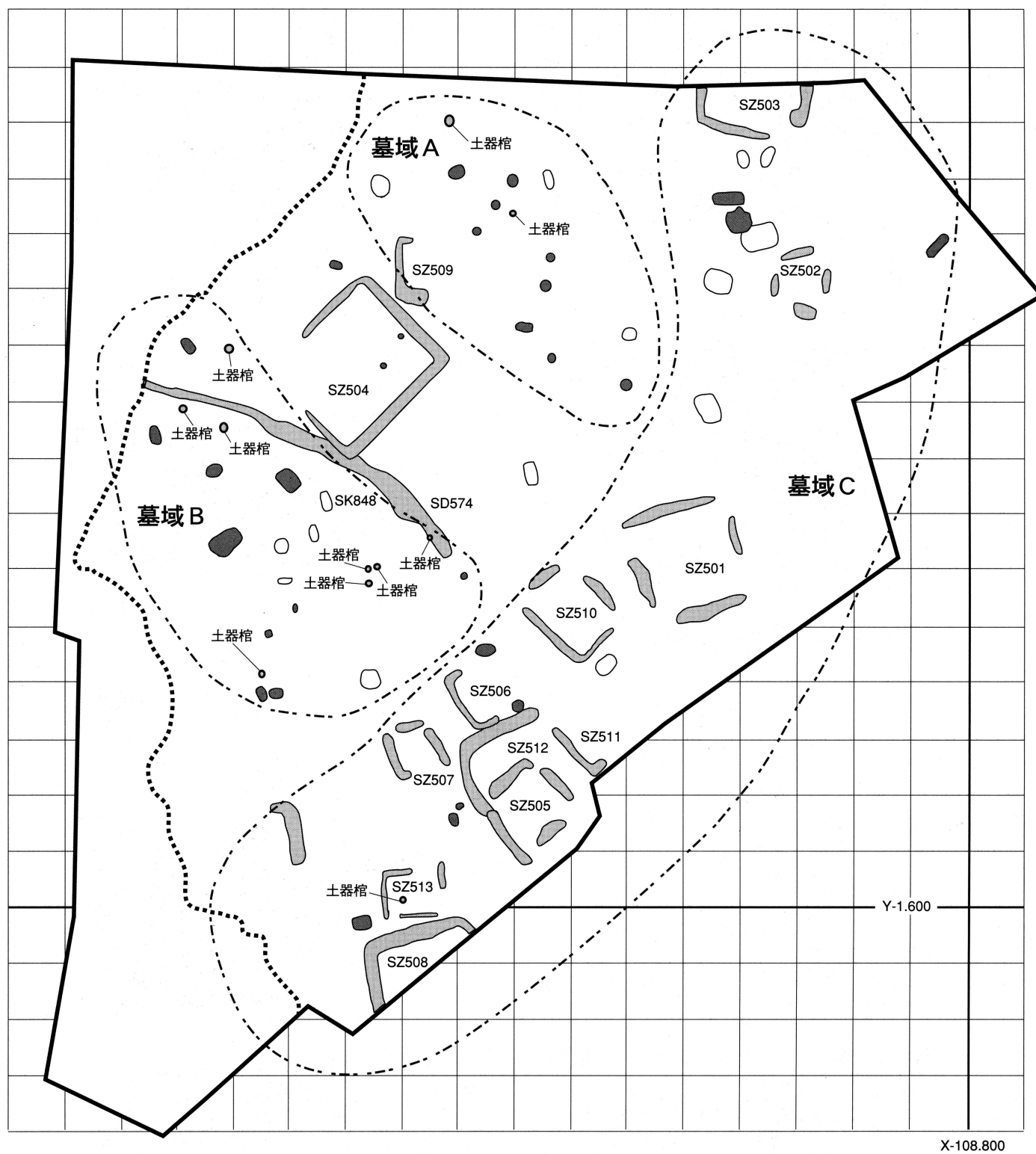
今年度も多くの土器や石器が出土した。土器は、壺や甕、高杯などであるが、竪穴住居から銅鐸形土製品も出土している。石器は、石鏃、磨製石斧などのほか、長さ25cmを測る大型石包丁や環状石斧も出土している。

まとめ

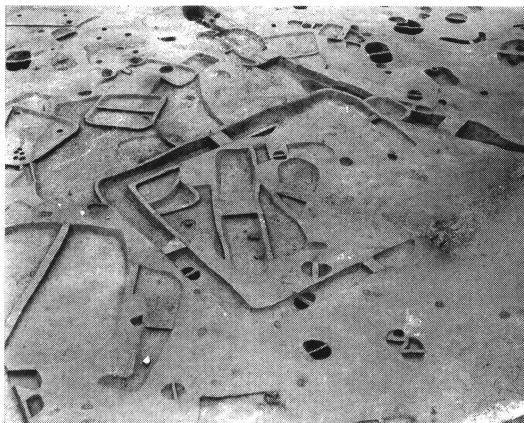
昨年度の調査において、縄文時代晩期後半に属する条痕文を施す深鉢形土器片や石匙、石棒（石剣？）など若干の石器が散見されたため、縄文時代晩期の遺構を想定して調査が行なわれたが、同時期の遺構は全く検出されなかった。しかし、弥生時代中期の墓域、および多くの竪穴住居が展開する居住域を確認した。このことから、I期は弥生中期に限定され、墓域の時期と居住域の時期の2時期に区分される。

なお、墓域の中核をなすと考えられるS Z 504は、集団内の中心的存在の人物を埋葬した墓の可能性が想定されるが、祭場などの特殊空間の可能性も考えられるかもしれない。いずれにせよ、調査段階ではその性格を確定することができなかったため、今後の研究成果に期待したい。

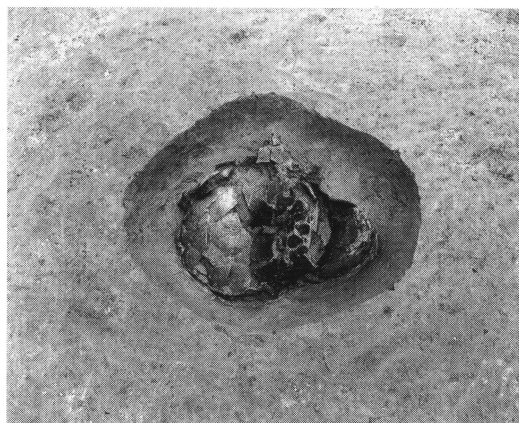
（中野良法）



第2図 川原遺跡98区Ⅰ期主要遺構配置図 (1:500)



S Z 504



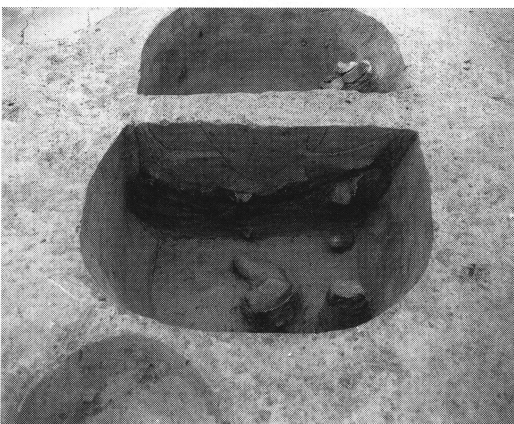
土器棺出土状況（合口）



土器棺出土状況（横位）



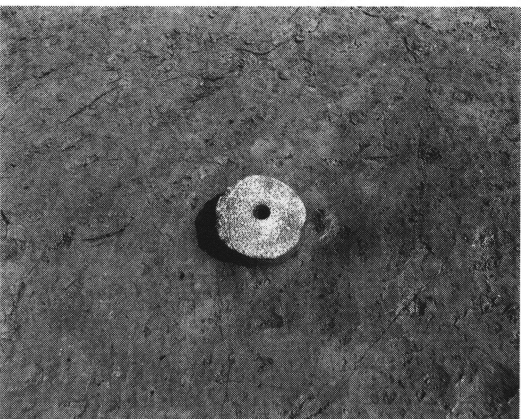
土器棺出土状況（立位）



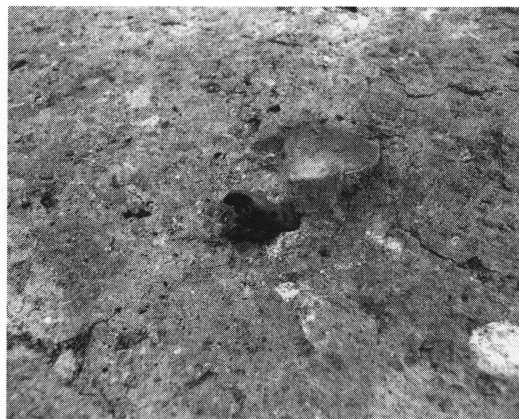
S K 848土層断面



石包丁出土状況



環状石斧出土状況



銅鐸形土製品出土状況